

掛川の海岸防災林、3000本を植樹

2021年5月23日 05時00分 (5月23日 05時00分更新)



1本ずつ丁寧に植樹する参加者ら＝掛川市大渚で

掛川市の「希望の森づくり・潮騒の杜（もり）植樹祭」が二十二日、同市大渚の海岸防災林であった。市民や企業など約百人が参加し、森林保全に取り組むNPO法人「時ノ寿の森クラブ」のメンバーが植え方を指導した。

参加者は海岸防災林「掛川潮騒の杜」の斜面約千平方メートルにクロマツ、ヒメユズリハ、マサキなど十種類の苗木、計三千本を植えた。

市民協働による希望の森づくりの植樹は、東日本大震災後の二〇一二年に始まり、海岸防災林を中心に三・六ヘクタール、十万本を達成した。

市は津波被害の軽減を目的に「掛川モデル」として国、県と連携し海岸防災林強化事業を推進。コンクリートではなく約九キロの緑に囲まれた防潮堤を整備している。進捗（しんちよく）率は現在五割弱。

植樹に加わった久保田崇市長は「一期目の任期中に進捗率八割を目指している。皆さんと一緒に造り上げていきたい」と語った。同市第一小一年の佐藤公紀君は「二十本植えた。大きく育つのが楽しみ」と話した。（中野吉洋）